



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年
10月号
通巻674号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年10月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



不知火海(しらぬいかい)に沈む夕日

(高倉敦子さん撮影・文8頁)

座談会・法主を囲んで(再編集版)

みそぎ

禊を通して生き方を考え直す(第7回)

法主 矢追日聖(満64歳) 他

自然の流れに溶け込む

法主 それは、普通宗教で言う御利益信仰と違って、自分の生命体が自分個人を守るんやから、それは細こう守ってくれよ。お社で祀った守護霊やか、そんなと問題が全然違うよ。自分のことやもん、自分で守りよ。そりや暗示も早いこと来るやろし、自分がボーツとしとったかて体で教えてくれよるしな。人間そこまでいくと神人冥合という境地になるわけや。神と人が一つになる。

神というのは、その時は自分の個人の生命体のことを言うわけや。法味悦楽いう言葉を使うけど、そういうような境涯になつてくる。そうすると自分が大体いつ死ぬということも自分で予測できるし、分かってくるはず。今こんなことしとつたら、ひと月先には病気になるということも分かるはずや。

極端な言い方するけどな、みんながそうなると、人間の世界があがたい極楽浄土みたいになんねんけれども、それは理想の世界であつて、現象界では永遠にそれはならん。相対的に仕組まれているから。けど、そうならん一つの理想の世界にみんな向かつてんねんけれどもな。

そうすると、仮に振魂をやったかて、井上日召先生みたいに人殺しが出て来る人もおるねん。また剣の道一本で名人達人でいく人も出てくるしね。そらどんな人もあるわけやな。

振魂やったから人間がみんな善人にな

るとか悪人になるとかは決めつけられへん。その人の本来の正しい姿が出てくるだけで。言うてみたら難しい話や。

そやさかい、わしここでおつていろんな人がおつたかて、人に対して憎しみみたいなもん全然あらへん。どんな人がおつたかて毛嫌いもせんし、憎しみもあらへん。その人はそういうふうになまれてきとるんやと。また自分は自分としてこういうふうに生まれてきてるんやと。わしはそんな考え方で、平等で考えるさかい。

お互いにそういうような心境に、なれるというのは頭で聞いたらなるほどと思うけど。実際問題ぶつかったらなかなかそうはいかんということは、今言う禊をしてないからや。本当の禊を。自分の魂の叫びを知らんから。これはまた奥の話になるけど。近き将来にこれできるのと違うか。

大倭も経済的にちよつと余裕出て来たら人間墮落しよるからね。こそもそうだった時に禊でギューツと引き締められるように自然の動きがなるのかもしらんと思う。金銭的に余裕が出てきて、ブロックで金儲けせんでもいいようになった時には、ブロックを止めてしもて、ここで禊道場しますからそれまで、と言うてある。

それがやな、金も経済的に余裕できてきた時に、逆に世俗の人と同じように、垢が積もつてきて世間がこうしてるからうちもこうしよう、ああせなあかんから、うちもこうしようというように、世間と同じようにフワフワついていくようになるのと違うかと。そんな時には本当の禊の時期が来ると違ふかと。そんなやけどな。

というて、わしはどないになったかて、それから明日どうしよう、明後日どうしようて、何も考えてないねんで。今言うてんのでも、こんな10年先のこつちや20年向こうか分からへん。わし

が死んだ後かもわからへんで。そんな時間わからへんもん。そやから、そんな自分の考え方も何でも思惑出て来たら一寸でも早よ実現したい、ちよつとでも早よしたいという焦りというのは人間みな持つやろ。

わしはそれが全然ないねん。自分が死んでから後に出来てもかまへん。生きてる時に出来てもかまへんねん。これは加美さんの仕事やと、そういつたのんびりしたとこあねんな。けど普通の人には、ええことやと思つたら早いこと実現したいという、そんな人が多いわいな。それにとらわれるからまた具合が悪い。

いわる神ながらという自然の流れにほんまに虚心坦懐に何にも囚われなしで、スーツと溶け込んでいけるという、そんな人間になるということが一番いいんじゃないかと思うねんで。難しい話やな。簡単なようやけど。

せつかな、86回も続けてきた禊の内容をわし腐すような話になったけどな。せやけど禊そのものの本当の本質から見たら、なつとらんということやねん。けど、これは初歩やからな。わしこれ奥義の方から眺めた言い方してるねんからな。矢追鈴月 100回くらいしてみよか(笑)。

杉本 順一 そうしたらまた回数ばかり追いかけるようになるしな、出席率がええ人から皆勤賞貰うて喜ぶようになってしまつても具合悪いし。

法主 そら具合悪い。そんなんはあかん(笑)。

水野勝美 月に2回しようて言うてな……。

杉本 そうしたら、坊さんの資格みたいなもんで、何日坐禅したら何の資格もらうとか。形式の方が先になつて、比叡山の山に何日行つたり来たりしたら、なんやらの資格できるとか言うやん。

法主 吉野の大峰山でもやつとるがな。
杉本 みんなああいうふうに、逆になつてしま

んやね。目的と手段が混同されてしまつて。本当は修行のためにやつたはずなのに、修了のため言うて、修行そのものがね、手段であつたはずなのに目的になつてしまつてね。

法主 せやせや、それまあふわふわと100回やつてる人より、ほんまに真剣に取り組んで、1回でパツと到達するようなやつもおるかもしれん。

桑村日佑さんの場合

杉本 日佑さんみたいな人もいるねんからな。

法主 そやそや。

杉本 ガーツと追い詰められて、ええも悪いもあらへん。もうギリギリまで行つてバーンと出る。それでなんかハツと悟るもんあるんでしようねえ。ああいうのは他人には分からへんもん。

法主 現実生活からほんまにこうギューツと圧縮されとつてん。

昨日も編集部の「大倭30年の流れ」の取材で日佑の話しとつてん。最初の出会いでビックリしたもんな。

あの時に、お前(青山日元)らは柏原(大阪府柏原市)の近所で一緒に生活しとつたんやけれど、平素の時にあの人はあんなこと(霊動)したことないねんやろうな。あの時市役所で橋とか、何かの現場で監督の仕事をしたりしてたとか言うてたな。

日元 あの時、神野(主計)のおやつさんも居てましてん。

法主 ああそうか。

日元 桑村さんは神野のおやつさんの上司やつたんです。

法主 ああ、神野もいっしょやつたんか。桑村が上司やつてんな。その話あんまり知らんかつてん。



後ろの右端が桑村日佑さん

来はったらどうですか」と言うたら、「ほな、いっぺん行きまひよか」となりまして。あの人のはドヤコヤ話する人ではなかったですけど、あそここの奥さんと子供が死んだわ、双子のツネオとヤスオとが腸チフスになりよる

日元 ああ、そうなんか。
日元 日佑さんはジーと部屋閉めてて、建具はみな燃やしてもうてあらしまへん。戸だけ閉めてましたんや。「桑村さんヤマトの先生来てはるから

日元 奥さん居てはりました。ほんで桑村さんが兵隊で復員してきはった時にはもう死んではりましたかな。
鈴月 戦前にあこに來はったわけ。

日元 ええ、日佑さんはおとなしい人やから、私はまともにものを言うたことなかった。兵隊から戻ってきたはって、あの雑炊を被って死んだ、娘のタケちゃんを散髪したことは私覚えてます。
法主 雑炊かぶったんか、俺煮え湯やと思つとった。

日元 あの長屋のこっちゃし、焔炉(七輪)で何か炊いとったらしい。それでタケちゃんがバートときて、鍋をひつけて被ってしまったんや。
鈴月 そんな事もあつて法主さん来ていただいた時に私が日佑さん呼びに行きまして。

法主 ああ、そうなんか。
日元 日佑さんはジーと部屋閉めてて、建具はみな燃やしてもうてあらしまへん。戸だけ閉めてましたんや。「桑村さんヤマトの先生来てはるから

日元 奥さん居てはりました。ほんで桑村さんが兵隊で復員してきはった時にはもう死んではりましたかな。
鈴月 戦前にあこに來はったわけ。

日元 ええ、日佑さんはおとなしい人やから、私はまともにものを言うたことなかった。兵隊から戻ってきたはって、あの雑炊を被って死んだ、娘のタケちゃんを散髪したことは私覚えてます。
法主 雑炊かぶったんか、俺煮え湯やと思つとった。

日元 あの長屋のこっちゃし、焔炉(七輪)で何か炊いとったらしい。それでタケちゃんがバートときて、鍋をひつけて被ってしまったんや。
鈴月 そんな事もあつて法主さん来ていただいた時に私が日佑さん呼びに行きまして。

わと……、それが短期間にあたりましたやろ。それであそこ(禊會)に來はったところ、バートと座ったままで飛んで上がったしまいはりまして、それで桑村さんの家の事情を傍のものが知ってますから、もらい泣きしたようなことや。
法主 そやったなあ。
日元 それで、それが済んでから桑村さんの家に法主様に行っていたきました。戸閉まってるのを、バンバアンとみんな開けてまわりました。形ばかりの神棚の前に貼つてあつた紙もバンバンと全部とつてしまひましてん。
1 回だけの禊
法主 そうやったのう。そんなことあつたのう。
日元 そして桑村さんはふうふうして息吹いて……
法主 淨め回してな。それがあの桑村のほんまの瞬間での禊やつてんもん。あれ1回でこと足りとるねん。それからずっと死ぬまで全然気持ち変わらんかった。それと同じ心境できよつたわ。
この禊會はもう86回やけど、桑村は1回や。それでもうずっと死ぬまで押し通しよつた。自分の中から來たやつやもん。わしは、あの人はどこか信仰でもしとつた人かなと思つたけど、聞いてみりやそうでもなさそうやし。
それでこの手が……何とか言うてたな、お前覚えてるか?
日元 「この手やこの手や」って、こう、法主様の手撫でてねえ。手を拝んで。「この手が世界の人々を救う手なんだ」って言うて。そんなように言われたように思いますねん。
わずかな間に嫁さんが死に、子供が死に、残つた子供の2人が感染症の病院に入つてまっしやろ。もう、家が火消えたみたいないなもんでんがな。

それをみんな傍のものが知つてまんがな。町内のものばかりやもん。誰も彼も泣かんもんなかったです。みんなオンオン泣いてましてん。
法主 ほんま、せやつてんで。皆泣いとつた。
日元 あの人大きい声でもの言わへん人やから。
法主 ほんま大人しい人やな、あの人。

日元 それが來たな來たなっていうんじやないけど、來たなつて思つたら座つたままバンバンバンって飛び上がつて。
法主 一応後ろの入口入つたところで遠慮して座つとつたが、バンバンつて前に出てきて……。フツフツと來よつたなと思つた(笑)。

ただみんなもビックリやら、あつけにとられるやら、またそれで傍の人が、感極まるというかな、みんなワンワン泣きよつたもん。
わしはその時あそこの実情知らんがな、初めてヒョツと來た人やもん。またその日にそんな人を連れて來てどうこうつてことも前もつて話もしてへんし、ちよつと桑村さんてことは聞いていたけど、來たらええやないかぐらいの程度やもん。

そやから後で座つてたんが、バンバアンつてフツフツと出て來よつて人の手持つてビヤーツて引っぱり上げて、それで何とか言うて、自分でまた触つて、俺の手何回も持つとつたわ。
そんな芝居でも何でもあれへん。今までその人が信仰でもしとつてこう神さん事で騒ぐとかいうんやつたら傍の人は、また始まつたというようなもんやがな。ところが市役所勤めとるカタパン(※堅物)で、栄養失調みたいな顔して闇の物は一切食わへんというカタパンやもの。

自殺の1歩手前で
日元 毎日ね、弁当箱持っていかりはるねんけど中

は空つばやねん。家に男の子が4人おつてな。死んだ女の子でつしやろ、配給だけですがな。あの入建設の方の資材係かなんかしてはって。そしてらみんな闇に流しよんねんけども、あの人はそんなこと一切しなかったと一番上の兄貴が言うてました。それから息子のヨシアキが「あの時はもう親父は鉄道自殺しようと思つたんだらう。子供心に親父が外に出よつたら私離れしまへんでした」と言つたりしましたな。

法主 そや後で自殺しようと思つてたと言つた。だからもう子供が食いよつたら我がが食うもんあらへんが。そやから市役所に行くのに弁当箱は格好で下げて行きよるけど中空つばや。みんな子供食つてしまひよる。家に帰つてきたら近所から子供が出てきよつて、何しか食うもん置いてあつたら食べてしまひよつて、帰つてきたら空つばや。醤油までなかったと言つたわ。

旦元 私もその前の家に居りましたけど、もうあんなチビ子ばかり。ウチの家、アコの家、あの近所いうたら子供の遊び場でんがな。10人も20人もおりましたな。だから燃やすもんなかったら、そこらのもんぼちぼちめくつていきよる。そら無茶苦茶でしたわ。

法主 そら建具もろくなもんあらへんし、みんな子供らがちぎつていきよる。

鈴月 みつちゃんも学校の本を燃やしたようなこと言ひよつたな。

法主 そんなもん学校に行つたらへんもん。そやから現実の生活の中でな、もう鉄道自殺でもしよるかというところまで自分自身で追い詰め追い詰めて。言うてみたら、生きるか死ぬか、もうどつちかまで自分自身追い詰めとるが。

そこで出てきた自分の本心がバツと出よんねん。それで今まで経験したことないような、そんな

なものがいつべんに靈動みたいにバツと起こつてきて。そんなおとなしい、大きな声でもの言えへん人が大勢の中でバーつてやつてきて、ワシの手握つて、それをしよつたわな。あそこの家に行つた時でも、家の中をみんなこう払つてしまつて、普通みんな神棚のところに紙垂というて白い紙を貼るが、それを引きちぎつてもうてな。そやから最初にわしが出会つたその時の1回の禊や。それであの人は死ぬまで通しよつたもん。

森下 ああ、そうでつか。

法主 そやからここに来た時でもね、昭和30年から安宿苑の事務に来て、あそこの神さんと、この拝殿の野菜もんとか青もんのお供え物は毎日、1日も欠かしよらへん。自分の畑で作つた物をお供えしてお詣りして。

今まで神さんに手合わしたことない男やと思うわ。そら真面目な、真つ正直な、金庫に放り込んでも間違いないほどのクソ真面目や。そやから神様拜んで、神様から御利益もらおうつていう根性めつたにあらへん。

御利益信仰してる人は、何かの交換条件あんねんな。幸せにしてみらうとか、いや金儲けさせてもらうとか、いや病氣治してみらうとかいう、そんなこと思つて信心しよるわけや。桑村みたいな奴は、いわゆる世間で言う信仰みたいなものあらへんがな。

それがただ1回のほんまの禊や。それがわしのいう禊や。1回の禊や。そこまでに自分自身でも自分自身をミソイドつたわけや。最後に終点きたわけや。それでいっぺんに本質的なものがバーンと出よつてんな。その心境を死ぬまで通しよつた。全然変わらへん。ああ大した奴やと思うな。

そやけどほんまの禊いうのはそれやねん。それで今度生きるのに喜びを持ち、ひとつの氣力を持

つてな。そんなもの普通ではもうクチャーといく。自殺する1歩手前でもそこはこの禊のおかげで1歩飛び越えた。飛び越えたら今度はもう極楽浄土みたいなもんやわな。

生きとつて仮に自分で自殺するんやつたら、今死ぬという瞬間に、この世の中の苦痛というものは全部消えると思う。もう死ぬ時には、ただ鉄道に飛び込む時には、今までも苦痛になつて、もうそこから逃れたい助かりたいいうので飛び込みよるんやからな。汽車が来てバツと飛び込む瞬間で、ああ助かつたと思うやろ。

ところが、そういうような助かり方やなしに、生き延びて禊によつて1歩越えよつたわけや。そうするとやつぱり、もう自分なりの無限に広い世界が、新しい人生が出てきたわけやな。それで大倭入りつてことになつたんやけどな。それがほんまの禊や。

それぐらい深刻な禊をここではやつてる者はおらんわ。

そやけど、桑村のように現実生活の中においてそこまで行き切りよつたから突破口は早かつたんやけど、普通の者にしてみたら、そこまで深刻になつてへんがな。

そやから、やつぱりここでも、ひとつやろうかと言つと、先ほど言つた舞台装置とかが要るといふのはそれでやねん。でないと、自分自身の心境がな、充実して来ない。

(続く)

法主・言の葉



神の心を肉眼にて把握しようとするば、この現象界の森羅万象の形態を微細にわたつて観察することである。

こえ 聲が聴こえる

——ベトナムでの平和交流の報告

東京都 堺 祥子

ネルソンさんの「イエス」

「ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？」
アレン・ネルソン氏はベトナムの戦場から帰還した米国海兵隊の兵士で、帰国後重度のPTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症し、家族からも見放され路上生活者と成り果てていたところ、ひょんなことからかつての友人に、小学生にベトナム戦争の体験を話して欲しいと依頼され、話し終わった時、ある女子児童からこの質問を受けた。

彼は動転した。もし「イエス」と答えたら、この子たちは自分を殺人鬼として決して許さないだろう。しばらく逡巡した末に「イエス」とうめくように答えた。言葉なくうずくまる彼に質問した少女は「可哀想なネルソンさん」と言っただけで、それからそっと抱きしめ、共に泣いてくれた。この少女は「人を殺す」というリアリティを分かっていたのだろうか。

しかしこの時アレンが「イエス」でもね、動くものは全部撃て、という厳しい命令だったんだ。殺さなければ自分が殺される。アメリカの国のためにやったんだ。私は貧しかったから、兵士になるしかなかったんだ」等々の言い訳をしていけば、少女は「可哀想なネルソンさん」とは言わなかったであろう。彼女の純心な魂は、彼の全身に渦巻く苦悩を感じ取り、ただそっと抱きしめたのだ。私は、それこそ人間の究極の愛の行為だと思う。

これはアレンの自伝を、反戦映画の旗手塚本晋也監督が、10年余温め続けた末に映画化が実現し、この度、世に問われた『ネルソンさん』、あなたは人を殺しましたか？』の劇的なワンシーンである。塚本監督は商業映画界にあって、反戦の強い信念を勇氣を持って貫かれている尊敬すべき映画人である。

実はこの映画には「アレン奨学会沖縄」も製作委員会として参加している。当会の代表官野座映子は、米国のコロンビア大学の平和集会でアレンと出会い「沖縄を見て下さい」と彼を招待した。それからアレンは13年もの長期にわたり彼女の家に滞在して、日本全国を回って平和を訴え続けられた。

戦争被害の苦しみ

ベトナム戦争の10年間、米国はジャングルを絶滅させ、民衆の食糧を奪う目的で農作物を汚染するために、発癌性の猛毒ダイオキシンを含む枯葉剤を7100万リットル散布した。その影響により戦争終結50年を経た現在もなお、ベトナムの2世、3世の人々を、遺伝的疾患、外的障害（肢体の不自由な子供の出生）で苦しめている。それはベトナムの人民ばかりか、自国のベトナムの従軍兵士にも及んでいる。米国はベトナム帰還兵士の枯葉剤被害者に対しては、補償金を支払ったにもかかわらず、ベトナム現地の被害者に対しては因果関係を立証できないとして、補償金支払いの訴えを棄却した。

アレンは枯葉剤の影響による「多発性骨髄腫」を発症し、2009年、享年61歳で亡くなられた。戦争は為政者によって引き起こされ、双方の国民は全て「被害者」なのだと思



戦争証跡博物館で。右から筆者・ドクさん、宜野座映子さん、グラ

ン、民は全て「被害者」なのだと思。国家によって有無を言わず殺人者に仕立てられた兵士たちは、無事生還したもの、国家の重罪を背負いつつ、苦悩に満ちた生を生き行かねばならない。

宜野座は13年間家族同様に過ごしてきたアレンをニューヨークの病院に見舞った。その際日本全国から寄せられた見舞金を渡したが、彼は「これはベトナムの子供達のために使って欲しい」と言っただけで受け取りを断った。

宜野座はこの言葉を実現すべく「アレン奨学会沖縄」を創設し、「この指は銃の引き金を引くのではない、固く手を繋ぎ合うためのものだ」というアレンの言葉を胸に、以来17年間、毎年ベトナムの中小高生100人に、奨学金を支給する活動を続けている。

今年（2026年）は3月に支給式をダナンで行い、8月には「平和文化交流会」を、ホーチミン市の数校の大学や「戦争証跡博物館」（ここには命懸けで戦場をカメラに収め「安全への逃避」でピューリッツァー賞を受賞した澤田教一氏——

彼は受賞の年、1970年に銃弾にたおれた。

——また、沖縄出身の石川文洋さんらの貴重な写真の数々が展示されている」においても絵本の読み聞かせをやらせて頂いた。

読み聞かせに選んだ絵本は、紅型作家の平良みちこさんが沖縄に長く伝わる民間伝承であるガジュマルの樹に潜む妖精「キジムナー」を題材に『平和の種を蒔く妖精 ブナガヤー』の3部作を出版され、当会のベトナム人翻訳家グエン・ドアン・ニエンさんによってベトナム語に翻訳されたものである。8月の訪問では600冊の絵本を数力所に贈呈する事ができた。

琉球舞踊と方言

この度の特筆すべきは、新進気鋭の琉球舞踊家、新垣さんの正統的琉球舞踊が披露できたことだ。彼女は正式な衣装を用意して、素晴らしい舞を見せてくださった。

琉球王朝500年にわたり育まれた格調高い宮廷舞踊から、一般庶民の労働歌、収穫、夏祭りのエイサー、船出の歌、成年祭、男女間の情歌。これらは主に三線（サンシン）に合わせて歌うのだが、ほぼ各家庭でサンシンの名手が必要なものなのだ。沖縄の伝統芸能の幅の広さ、深さは驚異的だと私は思う。しかも歌詞は全部方言（琉球語）であり、その歌詞はとても味わい深いのだが、極めて難解なのだ。

この方言に関しては戦後の教育行政に決定的な過ちがあると思う。

私は小5の頃大阪から沖縄に転校した。その教室では方言を話すことは禁じられ、話した生徒は「私は方言を使いました」という「方言札」なるものを首から下げさせられる。ひどい辱めの罰

を与えられるのだ。その頃オジイ、オバアのいる家庭の言葉は方言である。なのに「なぜそのことが悪いことなのか？」小学生に理解できたのだろうか。方言を使うのは主に男子生徒で、教師のいない所では方言コミュニケーション炸裂状態だった。私には初めて聞く方言の響きがとても面白かった。

標準語励行と言って、方言は国語力向上を阻害するというわけなのだ。その後のテレビの普及等により、言葉や文化は全国同一化へと進んでいき、味わい深い地方の文化は瀕死の状態であることは周知に通じである。しかし何より、教育現場でかくも理不尽な教育的配慮（？）が罷り通っていたことが許せない。これは文化大革命の際の「反革命分子」札や三角帽子が想起され背筋がゾッとする。

文化とは何か

この度、大学では日本語専攻の学生さんが対象だったので、私は古代文字アート作品を展示しながら、三千数百年

に遡る甲骨文字から、現在日本で使われている漢字についての話をする機会をいただいた。



舞台挨拶での塚本晋也監督

この度のメインテーマは「平和文化交流会」である。私はハタと「文化」とは一体

なんだろう。という疑問を持ったので、辞書等で調べてみた。

文化とは、風習、慣習、宗教、儀礼、芸術、芸能、音楽、絵画、文字、文学、演劇舞踊など人々の感性や想像性などが具現化されたもので、社会の固有の精神性を反映する。これらは相互に影響しながら固有の「文化」を形成している。と記述されていた。

この文化という文字は「文」（ふみ 文字）が「化」（ばける 変化する）と表記する。つまりその意味するところは、言葉が思考の枠組みや基盤を形成し、文字によって人々の間で事象の共有が可能になり、広範囲に伝播し、人類の生存の軌跡が現在我々が享受している「文化」なのではないだろうかという点に思い至った。

しかし人類史を見れば、営々と育んできた文化遺産は戦争によって、一瞬にして破壊されし尽くされた例は枚挙にいとまがない。

かくゆう沖縄も500年の長きにわたって琉球王朝が独自に築いてきた領土、文化遺産は薩摩藩の侵略を受け崩壊し、明治政府による廃藩により琉球王朝は消滅し、更に太平洋戦争によって完膚なきまで国土は焦土と化した。

戦後文部省の標準語による全国同一化政策により格調高い琉球語は徹底的に封じ込められてしまった。

平和をいかに実現するか

しかし、戦後80年間一度も戦禍に巻き込まれず、平和を貫けたのは、世界に冠たる日本国憲法の平和主義に因るものと考ええる。

「……国権の発動たる戦争と武力による威嚇又

は行使は、国際紛争を解決する手段として、永久にこれを放棄する。……」。この「放棄」という文言には論議があるようだが、憲法とは、国家が遵守しなければならない最高の法規制である。

法主をめぐる四方山話(3)

惟神

杉本順一

神道に関心のある人は「かんながら」という言葉を使われることがあるようです。

広辞苑(第7版)には、「随神・惟神」(かむながら)の項に次の説明があります。

①神でありになるまま。神として。

②神の御心のままで人為を加えないさま。神慮のまゝ。等々

私たちが入門した昭和40年ころにはよく「かんながら」を口にしたものでした。例えば、比較のおだやかに日々が過ぎていくうちに、日常どおりではない事が起こってきたりする。それが自分にとって、有難く嬉しい時などに「かんながらです。ありがたいことです」などと言う人がけっこうおられました。

しかし自分にとって不都合が起きたりする時などには「かんながら」という言葉は出てこないように思う。

生活の中でいろいろ変化してくることを表現するのに、自分たちの都合のいい時だけ「随神ですわ」と表現することを「都合カンナガラ」と言っ、この言葉の使い方の違和感について法主さんや鈴月かあさんと話し合った事もありました。

そんなころ拝殿に上がって、朝のお参りをし

「平和をいかに実現し、護るための具体的な方法論とは?」という難題に対し、我が国の「憲法9条」こそが明確な答えであると、私は強く確信している。

ていた時、拝殿の階段下から私を見つけて「ポンよ、随神にはな、時・所・人の三要素がある」と法主さんの大きい声が聞えました。

その時以来私は自分から「随神」という言葉を使うことが少なくなった気がします。

私事でしたが、思えば平成9年3月22日(法主さん帰幽後1年少し)の夜、突然激痛がおきて脳ミソが頭から飛び出したような気がしました。

次の日、大倭病院のレントゲン写真を見てその技師さんが、細君に何も言わずに首を横に振ったそうです。

すぐに奈良県立医大附属病院に。いきなり先生に「この人は誰?百引く七は?」と質問されて、見事に不正解。入院生活のはじまりでした。手術は無事終了。数日して、気づいたことは、今まであたり前だった言葉を失っていました。私は固有名詞を失っていたのです。

ヤバイこのままでは人と話もできない。生きても何もできないと思ったのです。同じ年の同じ日に大倭に入門した柴地則之さんが霊界にいてくれる。そう思って霊界の法主さんに「このままでは何もできない。霊界の柴地さんと仕事させてください」とお願いしました。法主さんは「オマエハイキテヤレ」との即答でした。

病氣は治る、そう感じて、入院中は先生の言われるとおりの一カ月でした。

あれから30年近く今は元のポンちゃんです。これもやっぱり「かんながら」なんでしょうね。

実は、アレンが反戦を訴える全国行脚の中で最後まで訴えられたことは、この「憲法9条」であった。武力に頼らない唯一の道は、この憲法9条の理念にあること。忌まわしい殺戮の応酬が続く今、この時代だからこそ「日本国民は世界に向かって声を上げるべきだ」というアレンの声が聞こえる。

ベトナム戦争最前線で4年間、戦争の実相をカメラに収めた続け、かろうじて厳しい戦火を逃れた沖縄出身の報道カメラマン石川文洋さんが去る8月、享年88歳で亡くなられた。アレン奨学金会沖縄は2024年に活動15周年企画で文洋さんを先導者として沖縄の大学生らと共にホーチミンを訪れた。ホーチミン大学や、戦争証跡博物館で「平和シンポジウム」を行った。文洋さんは、大学の講堂で、食事のテーブルで、車中で、青々と広がる田畑を見て「これが平和なんです」と何度も何度も語っておられました。

文洋さんのおっとりとした柔らかな口調が、今も耳の奥底に響いています。歴史の偉大な生き証人を失ってしまった喪失感は深く、言葉には尽くせない悲しみである。

けれども「アレン奨学会沖縄」は微力ながら偉大な先人たちの熱い志を受け継いで明日への道が、若者のかけがえのない命で贖われることのないように、力を尽くして行くつもりです。

(※筆者の堺祥子さんは本紙の読者であり、令和7年11月号の表紙に彼女の「古代文字アート」の作品を提供していただいたことがあります)

あじさい日誌

9月8日 午後5時から教務本
庁で本紙『おおよまと』の編集
会議が開かれました。

9月13日 午後2時から大倭会
主催禊会が開かれました。

この日は参加者10名。テーマは、「私にとつての禊」、「叱られた経験」で、じっくり語り合いました。



今年も彼岸花が咲きました

9月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

9月23日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

この日は昭和38年9月23日の
法話をお聴きました。

参拝者の多くがパイプ椅子の方がありがたいとの声が多く、今年中には拝殿での模様替えされた参拝風景になりそうです。

9月28日 午後5時から教務本庁で本紙『おおよまと』の編集会議が開かれました。

10月6日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。
参拝者も高齢者が多くなって

きそうなので社務所に小型の椅子が寄付されました。

午後6時半から大倭会館で邑

倭の会が開かれました。
大倭安宿苑では

9月25日 午後2時から法人会議室で特定社会保険労務士の先生をお招きしてハラスメント防止研修会を行いました。対象者は主任級職員で18名が受講しました。

(菅原園)

9月19日 午後からコスメサークルを行い、参加された方にローズの香りのハンドクリームを使ってマッサージュを受けてもらいました。香りで癒されながらのマッサージュも気持ちよさうでした。

9月27日 午後から映画サークルで、映画『免許返納』を上映しました。昔の映画で『免許がない』の続編とのことを説明してから上映しました。映画の雰囲気も内容も観ていた方にはハマった様子で「見やすかった」「面白かった」との感想でした。

(須加宮寮)

(須加宮寮)

9月8日 書道クラブがありました。今回は、障害者作品展に向けて作品作りを行いました。9月17日 合同防災避難訓練が須加宮寮出火想定で行われました。放送を聞き、ヘルメットを被り、階段を利用しピロティに避難しました。ピロティ前に集まった際、2階・3階と分かれ

て並びました。全員の避難が終
わった後、分散してフロアに戻
りました。

(長曾根寮)

9月9日(特養)外出レクリエーションとして職員付き添いにて近隣のスーパーに買物に出かけました。

9月21日（デイ）敬老会でお昼に祝膳を食べ、午後からは職員のマジックショーで楽しみました。

(茂毛路園)

9月21日 午後より3階出合いのホールで敬老の集いを開催しました。初めに副施設長より挨拶があり、介護士によるミニゲーム(脳トレ)を行いました。最後に職員による出し物で「ハンドベル演奏」を行い、参加者の皆さんに楽しんでもらいました。

あんなに

＊月次祭（大倭神宮）

11月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催契会

11月8日(日) 午後2時より大倭拝殿にて。

＊月次祭（大倭神宮）

11月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

＊月次祭（大倭大本宮）

11月23日(祝・月) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

表紙写真に寄せて

震災からひと月ほどたった頃、不知火海に沈む夕日があまりに美しいので、散歩の途中で思わず足を止めた。しばしの静寂、ふと心に浮かんだのは海からやって来た人たちのこと。

南から海を渡り沖繩へとたどり着いた民が、さらに九州へと渡ってきて、いつの頃かはわからないが、定住したと思われる場所がある。水俣市汐見町。水

銀へドロの埋め立て地と地続きな地区でもあり、かつては藪佐（ひくさ）という地名であった。百間の排水口（有機水銀の入った工場排水を海に流した所で知られる。地元の人たちは金刀比羅宮を祀ると共に、背後の森はこんもりと、私にはまるで沖繩の南城市にある藪薩御嶽（やさくみづ）に見えてこない。水俣出身の民俗学者、谷川健一さんによると「ヤブサツ」とは、九州西海岸一帯の聖なる森ヤブサ、ヤボサに由来するという。森の脇には「工場の敷地内につき立ち入り禁止」の札がかかっている。気になって仕方が無いが、いずれにしても、ここはこのまま手つかずで守られてほしいと願っている。

報

(熊本県水俣市 高倉敦子)

森元美代治さん帰幽される
むすび
交流の家や大倭とご縁の深か



力するなど、幅広い活動に長年取り組まれてきました。交流の家の活動にも、NPO法人の創立時の理事を務めたり、岡山県立の長島愛生園にあった県立巨久の高校の分校である新良田教室の第一期生の同窓会を交流の家で何回も開催するなど積極的にかかわってくれました。（写真中央が森元美代治さん）



った森元美代治さんが、去る8月16日に東京の多磨全生園で88歳で帰幽されました。森元さんはハンセン病患者や回復者の人権回復や国際交流に尽

編集後記

▼「神通力如是の真意をさぐる」の連載も来月号で第45回になりますが、いよいよ最終に近づいています。なかなか取っつきにくい内容だとは思いますが「毎回興味深く読んでいます」という声を聞くとホッとしています。昭和16年に法主が「後世に遺さむとす」と記したお気持ちに汲み取りつつゴールに向かってがんばります。▼ご感想があればぜひ聞かせてください。感想特集のようなものが組めればいいですね。(丁)